



Press Information

VPR07-060

2007年11月8日(木)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

米国で開催されたアーバンチャレンジ 2007 ハイテクレースでパサート“ジュニア”が第2位入賞

ウォルフスブルグ/ ロサンゼルス発、2007年11月5日

米国フォルクスワーゲン研究部門が大きな成功を収めました。完全自律走行型の車で高度なテクノロジーを競う世界で最も過酷なカーレース、アーバンチャレンジ 2007において、パサート ヴァリアントをベースに開発された“ジュニア”が2位に入賞しました。ロサンゼルス近郊のピクタービルにおいて“ジュニア”が優秀な成績を収めたことによって、今回2回目の開催となるこのハイテクレースで、フォルクスワーゲンは再びこの分野におけるリーダーであることを示しました。2005年に開催されたレースでは、フォルクスワーゲンのトゥアレグをベースとした“スタンレー”が優勝しています。“ジュニア”と“スタンレー”は、カリフォルニアに本拠地を置くフォルクスワーゲン グループ リサーチのエレクトロニック リサーチ ラボラトリー(ERL)と米国スタンフォード大学の協力の下で製作されました。このため、この2台の車両には、スタンフォード レーシング チームによる同じボディカラーが採用されています。

アーバンチャレンジは、さまざまな参加チームが「ハイテク」車両を持ち込んで、60マイル(約96km)に及ぶ市街地を模した未知のコースを、道路交通法を遵守しながら最速のタイムで完走することを競います。参加車両には、合流、ロータリー、交差点の通過といった諸条件が課されます。ドライバーが車両に乗り込むことは許されず、すべての参加車両は、コンピューターによるルートの決定と運転が行われます。

スタンフォード大学創設者のリーランド・スタンフォード・ジュニアにちなんで“ジュニア”と名付けられた今回のパサートは、電動パワーステアリング、エレクトリック アクセルペダル、DSG、電動パーキングブレーキを装備しています。フォルクスワーゲン オブ アメリカのエレクトロニック リサーチ ラボラトリー(ERL)は、これらの電動システムを改良し、100%コンピューター制御によって走行する車両を製作しました。車両の「頭脳」は、各チップにつき2個のマルチプロセッシング ユニットの搭載したインテル コア2 デュオ プロセッサが4機搭載されています。スタンフォード大学の人工知能研究所(Artificial Intelligence Laboratory)によって開発されたソフトウェアとの組み合わせによって、この車両は完全に自律走行することが可能になっています。

フォルクスワーゲン グループ 研究所の責任者であるProf. Dr. ユルゲン レオホルドは、「今年決勝に進出した11台の参加車はすべて勝者と言えるでしょう。すべての車両は、未来の車の先駆けとなる重要な先進機能を満載していました。“ジュニア”に代表されるプロトタイプに組み込まれたドライバー支援システムは、ドライバーの負担を軽減することによって、将来的に安全性と快適性を大幅に高めることに貢献するでしょう。我々は、合計3台のパサートが決勝に進出できたことを大変誇りに思います。この機会に、ブラウンシュバイク工科大学、カールスルーエ大学、ならびにカリフォルニアのリサーチ ラボラトリーにおいてパサート プロトタイプカー製作に携わり、大きな成功を収めたパートナーの皆様に感謝の意を表したいと思います。」と述べました。

アーバンチャレンジ 2007の勝者は、シボレー SUVをベースとしたプロトタイプで出場した“アメリカン タータンレーシングチーム”でした。この車は、2005年に開催された最初のレースで、トウアレグ「スタンレー」に敗れた車の後継車となるものです。決勝コースでは、60台のオフィシャル車両を含む障害物が、対向車線や多数の信号機といった現実にも極めて近い環境を作り出しました。参加車両は走行タイムばかりでなく、コースをいかに安全に走行したかについて、より高い評価がくだされました。

ジュニアに組み込まれた走行支援システムは、ドライバーなしで自律走行するだけでなく、将来的に車の安全性を大幅に高めることを意図して製作されていることが重要な点です。このような機能は、パサートやその他の車種に採用されているオートマチック ディスタンス コントロール(ADC)、フェートンやトウアレグに採用され、ミラーの死角に存在する車を警告するレーンチェンジ アシスト、トゥーランおよびティグアンのパーク アシストといった形で、既に実際の車両に搭載され始めています。

エレクトロニック リサーチ ラボラトリー (ERL)

1998年の設立以来、フォルクスワーゲン オブ アメリカのエレクトロニック リサーチ ラボラトリー(ERL)は、よりハイテクな車両をお客様に提供することに焦点を絞って活動を続けてきました。この活動には、新しいテクノロジーを識別して、未来の自動車のために、それらのテクノロジーの開発を促進することが含まれています。カリフォルニアのパロアルトに拠点を置くERLは、この種のフォルクスワーゲンの施設としては、北米における唯一のもので、シリコンバレーの中心部というロケーションによって、フォルクスワーゲンは、世界有数のハイテク企業や新興企業と直接作業を行うことが可能になっています。このようなパートナーシップによって、ERLは革新的な機能やアプリケーションのプランニングと開発を行うことが可能になり、それらは分析と試験を行う目的でフォルクスワーゲン車に組み込まれます。エレクトロニック リサーチ ラボラトリーに関する詳細情報は www.vwerl.comから入手可能です。

*アーバンチャレンジは、DARPA (Defense Advanced Research Projects Agency)(米国国防総省高等研究計画局)によって開催されました。

アーバンチャレンジの詳細は、フォルクスワーゲン グループ コミュニケーションズのウェブサイト www.volkswagen-media-services.comで閲覧可能です。

※ DSGはフォルクスワーゲン グループの登録商標です。